

笑顔いっぱい、力いっぱい

教育目標

- (1) 重い障害に基づく学習上又は生活上の困難の改善・克服を図りながら、毎日を快く力いっぱい生きる力を育てる。
- (2) 様々な働きかけを受け止め、生き生きと活動する力を育てる。
- (3) 欲求や要求を伝えたり、自分の気持ちを表現する力を育てる。
- (4) 人との共感関係を豊かにし、仲間とともに育ち合う力を育てる。

目指す児童生徒像

- ・毎日を快く、力いっぱい生きる児童生徒
- ・様々な働きかけを受け止め、生き生きと活動する児童生徒
- ・自分の気持ちを表現する児童生徒
- ・仲間とともに育つ児童生徒

児童生徒の一日 《日課表》

一日登校授業時の日課表

| | |
|------------------|----------------|
| 8 : 4 5 (1校時) | 登校指導 |
| 9 : 3 0 (2・3校時) | 自立活動 |
| 11 : 0 0 (4校時) | 昼食 休憩 |
| 13 : 0 0 (5校時) | 補食等 |
| 13 : 5 5 (6・7校時) | 学習グループ 単元学習 |
| 14 : 5 0 | 下校 |

※午前のみ登校の日、午後からの登校の日もあります。

病棟内授業時の日課表

| | |
|------------------|----------------|
| 8 : 4 5 (1校時) | |
| 9 : 3 0 (2・3校時) | 自立活動 |
| 11 : 0 0 (4校時) | (昼食) 休憩 |
| 13 : 3 0 (5～7校時) | 学習グループ 単元学習 |
| 15 : 0 0 | |

重心教育部の1日

登校



病棟で着替えをしたり、体調のチェックをして、さあ、学校へ出発です。看護師さん、行きます！

実態に応じて病棟でも授業を行っています。

病棟と学校とは、渡り廊下でつながっています。天候に左右されことなく、安全に登校することができます。

自立活動



先生とのコミュニケーションを大切にしながら、身体をほぐしたり姿勢づくりをしたりして、個別のねらいに応じた取組をしています。

朝の会



各グループで朝の会をします。実態に合わせて病棟や教室でそれぞれ行っています。

食事指導



一日登校の日は学校で食事を摂ります(経管栄養、経口)。

授業、食事と、常時学校看護師がついています。

遊びの指導



午後からの学習は、見通しがもてることを大切にして、1単元12回を基準に毎日繰り返し取り組んでいます。(年間9単元程度)

また、グループの枠をこえて、重心教育部全体での集会活動にも取り組んでいます。

主な学校行事



体育大会



修学旅行

校外学習



学習発表会

交流及び共同学習

本校の通学高等部、病弱教育部、重心教育部の3つの教育部が「同じ学校の仲間として、育ちあい、学びあう力を育てる」というねらいで、年間を通して定期的に「交流及び共同学習」を行っています。

また、近隣の青谷小学校や、地域とも授業や行事を通して交流を行っています。たくさんの友達がいる賑やかな雰囲気を受け止めながら、楽しく活動をしています。



通学高等部との交流



青谷小学校5年生との交流



地域の児童生徒との交流

参観・懇談

年に2回参観・懇談を設定しています。たくさんの方に来て頂けるよう、うち1回は日曜日に設定しています。



懇談の様子

医療的ケアについて

- ・学校における医療的ケアの内容は、主治医の指示に基づき学校看護師や教員が必要な研修を受けて行う吸痰、経管栄養などの行為です。
- ・指示書は1年ごとの更新で、主治医、保護者、学校間で手続きを取り交わします。
- ・学校看護師は現在2名で、クラスに入って児童生徒の健康観察や個々に必要な医療的ケアを行っています。また、教室などの施設の衛生管理についても専門的な視点から計画、実施しています。

医療的ケアを教育の一部として考え、より快適に安心して教育が受けられるということを心掛けています。

医療的ケアで使用する機器等の一例
(左：吸入器 右：吸引器)



病院との連携

南京都病院小児科医師をはじめ、しらうめ病棟、理学療法室、作業療法室、療育指導室と連携しながら、教育活動の充実を図っています。

指導連絡会

重心教育部職員と病院関係者(小児科医師、しらうめ病棟看護師長、療育指導室長)との間で、学校を会場にして行っています。児童生徒の身体の状態や学校及び病棟での様子等について、情報交換を行っています。

医療的ケアの研修

児童生徒が学校生活を送るに当たって必要となる医療的ケアについての研修を行っています。府立特別支援学校医療的ケア研修会への参加や、学校看護師または病棟看護師の指導による吸引の実技研修などとおして得た知識や手技を、日常の指導に役立てています。



理学療法室、作業療法室との連携、研修

自立活動を中心に学校生活の中で必要となる児童生徒の身体へのアプローチについて、病院理学療法士・作業療法士と連携して取り組んでいます。



児童生徒の運動機能や呼吸機能、摂食機能等の実態や指導上の留意点等についての研修を、病院理学療法士や作業療法士を講師として行っています。

療育指導室との連携

療育指導室を中心に企画運営される各病棟行事(誕生会、もちつき大会等)について、児童生徒引率のもと重心教育部職員も参加・協力しています。また児童生徒の車椅子製作に関する必要な情報提供や日程調整等を行っています。



○入学・転入学について

本校、重心教育部は独立行政法人国立病院機構 南京都病院、重症心身障害者病棟(通称 しらうめ病棟)に入院している学齢児を対象としています。

本校、重心教育部への入学、転入学を希望される場合は、南京都病院、小児科にご相談下さい。

○病院の案内

独立行政法人国立病院機構 南京都病院
〒610-0113 城陽市中芦原11番地
TEL 0774-52-0065
FAX 0774-55-2765

○教育相談

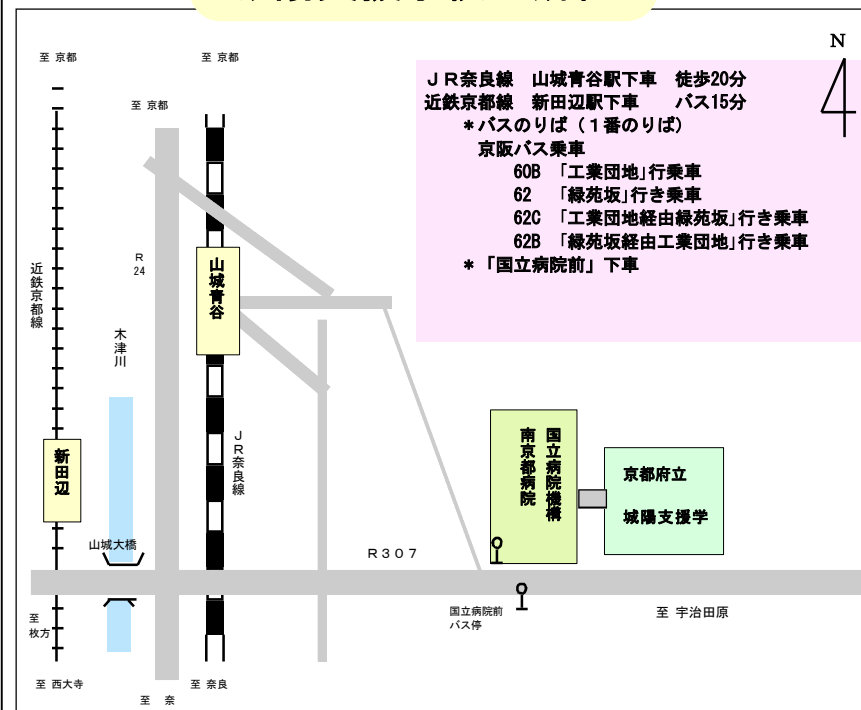
随時下記のような教育相談に応じています。

- ・重症心身障害児の教育や障害、疾病について
- ・学校における医療的ケアについて

など

いつでもお気軽にご相談下さい。

城陽支援学校の所在



いのち輝かせて

Aグループ作品



京都府立城陽支援学校 重心教育部

独立行政法人国立病院機構南京都病院 しらうめ病棟に入院している重症心身障害児(小学部・中学部・高等部)を対象としています。

医療・看護との日常的な連携の中で、一人一人の児童生徒の教育的ニーズに応じた教育を行っています。

〒610-0113 京都府城陽市中芦原1-4
TEL 0774-53-7100
FAX 0774-53-4044
<http://www.kyoto-be.ne.jp/jyouyou-s/>